

1. 事業構想評価

(1)事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目 標	メニュー		指 標	開始 年度	目 標 年度	達成状況															備 考
						1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目			5年目			
						目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	
林業・木材 産業の生産 基盤強化	高性能林業機械等の整備		労働生産性(㎡／人・日) の増加率		R9																
	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(㎡) の増加率																		
	木造公共建築物等の 整備	木造化(補助率1/2以内)		事業費当たりの木材 利用量(㎡／百万円)																	
		木造化(補助率15%以内)																			
		木質化																			
	木質バイオマス利用 促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備		事業費当たりの木質 バイオマス利用量 (㎡／百万円)																	
		木質バイオマス供給施設整備																			
		木質バイオマスエネルギー利用 施設整備																			
再造林の低 コスト化の促 進	低コスト再造林対策		人工造林面積のうち、人工 造林のコスト低減を図る取 組の面積割合(%)	R5		38	9	23%	38			38			38			38			

- (注)
- 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値／各年度の目標値)を記載すること。
 - 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
 - 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
 - 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「－」を記入すること。
 - 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率(%)	年度	
林業の多様な担い手の育成	新たに造林事業を開始する物等の育成	新たに造林事業を開始する経営体の数	0	団体	R5 (2023)	1	団体	R6 (2024)	1	100%	R6(2024)	R6認定林業事業事業体の実施報告(R7.10.23)
	労働安全の確保	労働災害発生件数(減少率)	28.0	件/年・千人	R5 (2023)	26.9	件/年・千人	R6 (2024)	31.2	-10.4%	R6(2024)	厚生労働省「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況(令和6年確定値)、令和2年国勢調査
		素材生産量(目標値)	398	千m ³	R5 (2023)	404	千m ³	R6 (2024)	431	106.7%	R6(2024)	三重の森林づくり実施状況報告書(令和6年度版)

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。ただし、現状値より数値を縮減する(減少させる)ことを目標とする指標については、目標値／目標年度の実績とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
林業の多様な担い手の育成	新たに造林事業を開始する経営体数については、刈払い機及びチェーンソーの導入を行ったことにより、事業実施主体において造林業が開始され、目標値を達成した。 労働災害発生件数については、集団指導や安全パトロール等に取り組んだものの件数は増加し、目標を達成することが出来なかった。 素材生産量は431千m ³ となり目標に対して100%を超える達成率となり、労働安全の推進が寄与していると考えられる。	今後も引き続き、新たに造林業を開始する意向のある経営体の情報を得た際には、本事業の活用を助言する等して支援を行う。 林業労働災害の発生率は他産業と比べ高い状況が続いていることから、引き続き、巡回指導や安全衛生指導員の養成、各種講習会の開催等に取り組み、安全意識の向上を図るとともに、林業経営体の育成に繋げていきたい。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。